

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<p>○話を聴く力が不足している。授業内の教員から出される指示や、他者の意見を聴く際に、相手の意図や、考えを推し量ることが苦手な生徒が多い。</p> <p>○他者と課題解決のために話し合いを行うことが苦手な生徒が多くコミュニケーション力の育成が求められる。</p> <p>○文学的文章の読解において、副教材の解答や他者の意見に頼り、自ら考える姿勢が十分でない生徒が見られる。</p>	<p>○聞き取りテストを学期ごとに行ったり、グループワークを授業内で実施したりして、その際にメモや考えを記入する時間を確保する。</p> <p>○授業の単元にあるディスカッションで話し合いを円滑に行うためのコツを伝える。そのコツを授業のグループワークで生徒が活用して、定着させていく。</p> <p>○文学的文章の読解において、多様な意見が出る課題を設定し、タブレット端末等を活用して意見を伝え合う協働的な学習の機会を増やす。</p>	<p>○聞き取りテストを学期ごとに行って、会話の情報を適切に受け取る力の育成を務めている。</p> <p>○話し合いの機会を授業ごとに十分に確保しながら、話し合いのコツの定着に努めている。</p> <p>○多様な課題を設定し、個々の達成度に応じた学習を進め、思考力および意欲の適切な伸長に努めている。</p>
社会	<p>○社会的事象に興味・関心をもち、専門的な用語を覚えようとする意欲はあるが学習の定着度に個人差がある。</p> <p>○社会的事象について、資料を根拠に自らの考えを構成し表現する力や、社会的事象を空間的な広がりや時間的な変化、相互の関連性に着目して思考し、表現する力が不十分である。</p>	<p>○基礎的・基本的な知識の定着を図るため、ワークや専門的な用語を覚える繰り返し学習の機会を設定する。</p> <p>○身近な学習教材を取り入れ課題解決型の授業を構成し、資料を根拠に自ら考え、表現する場面を設定する。 また、タブレット端末等を活用して意見を交換したり、作成物を相互評価したりする等、社会的事象を多面的・多角的に捉える活動を増やす。</p>	<p>○課題解決型の授業を構成するとともに、ICT 機器を積極的に取り入れることで、生徒の興味・関心を高め、意見を発表しやすい環境作りを進めている。</p> <p>○授業中の発表や作成物の作成時に、根拠を明示することを繰り返し指導している。</p>
数学	<p>○授業評価の「わかりやすい」という項目が、どの学年も肯定的な意見が90%を上回り高い評価となっている。しかし、課題として、「家庭学習に意欲的に取り組んでいる」という項目が、80%前後に留まっている。</p> <p>○授業評価の「タブレット端末等を活用した協働学習」の項目が、学年が進むにつれて肯定的評価が低くなっている。</p> <p>○令和6年度全国学力・学習状況調査の結果は、どの項目も東京都や全国の平均正答率を上回っている。しかし、領域別に見ると、図形の領域のポイントが他の領域に比べて低くなっている。</p>	<p>○スライドを使って授業をすることで生徒の意欲が増しているのを、積極的にスライドやパワーポイント、デジタル教科書等を利用して授業を作っていく。また、スライドだけではなく、立体模型やトランプなどを用いた体験できる授業にも取り組んでいく。</p> <p>○各クラスの学習状況に合わせ、問題演習の時間を適宜確保し、繰り返し問題を解いていく。発展クラスは応用的な問題をプリント学習で行うことで、応用力をつけていく。</p> <p>○生徒の実態に応じて柔軟に授業改善を行う。</p>	<p>○スライドなどを活用し、授業を展開している。今後、各単元に応じて、体験的に学習に取り組める工夫を行っていく。</p> <p>○基礎クラスでは、取り扱う内容を精査し、学習ペースを調整することで基礎基本の定着を図っている。発展クラスでは、発展的な内容を別途取り扱い、応用力の取得ができるよう指導している。今後とも基礎、応用問わず、引き続き反復させながら必要な力を身に付けさせていく。</p>
理科	<p>○理科に興味・関心をもち生徒は多いが、自然の事象・現象についての基礎的な概念や原理・法則を理解し、それを基に思考・判断を行い、科学的な視点で自然の事象・現象を捉える経験が不足している。</p> <p>○科学的な視点で捉え、自らの考えを表現する力が不十分であり、表現力の育成を含めて指導の工夫が必要である。</p>	<p>○観察・実験に日常生活に関する身近な学習材を取り入れ、体験的な学習を中心とした指導を行う。</p> <p>○観察・実験等の体験から導き出される結果を表やグラフ等を用いてレポートにまとめ、小グループ内での発表の機会を設定するなど、自然の事物・現象を科学的に捉え、思考力・判断力、表現力の育成を図る。</p>	<p>○デジタル教材や ICT 機器を積極的に取り入れ、生徒の興味関心を高めさせるとともに、観察・実験を軸としながら授業展開を進め思考力を育てている。</p>

音楽	<p>○歌唱等表現の活動において、曲想に応じた表現を苦手とする生徒が多い。表現するために必要な強弱、リズムなどの音楽を形づくっている要素の理解が十分ではない。</p> <p>○鑑賞活動では形式、構成、速度等の音楽を形づくっている要素を感じ取り、自分なりの根拠を基に批評することを苦手とする生徒が多い。</p>	<p>○強弱、リズムなどの音楽を形づくっている要素を知識・技能の両面から理解するため、プリント学習と並行して楽譜を読み取り、表現し合う活動を取り入れる。</p> <p>○根拠のある具体的な批評文を記述するために、具体的な言葉や音楽を形づくっている要素をプリントに記載し、音楽を批評する力を高めていく。</p>	<p>○自身の演奏を聴くことで、課題把握をし、より良い表現方法を考え、表現力の向上を図る。</p> <p>○模範的な鑑賞レポートを全体で共有し、批評する能力を高めていく。</p>
美術	<p>○美術作品に触れる機会が少ない為か、いざ自分の制作活動を始めるとアイデアがスムーズに出てこない傾向が強い。</p> <p>○固定観念にとらわれ目の前にあるものをニュートラルな視点で見ることができない生徒が多い。</p> <p>○制作活動において問題が生じたとき、どうしたら良いかと自分の力で試行錯誤せず、すぐに答えを聞く傾向が強い。また、自分の作品制作における判断や決定を人に委ねる傾向も見られる。</p>	<p>○様々な芸術作品を校内に掲示する。授業内もなるべく多くの芸術作品を様々な手法で鑑賞させる。</p> <p>○知識にとらえず素直な心で物がみられるよう課題を工夫する。</p> <p>○生徒一人一人が自信をもって制作できるよう、制作手順の説明をよりわかりやすいものにし、制作時には、机間指導での適切な声かけを心掛け、生徒の声に耳を傾け、一人一人の活動と作品を尊重する機会を増やしていく。</p>	<p>○校舎内に生徒作品はじめ芸術作品を展示し、ICT 機器を利用して多くの作品を鑑賞することによって芸術に対する興味関心の幅を広げるよう試みている。</p> <p>○物の見方への意識に変化が見られ写実的なデッサンができるようになりつつある。</p> <p>○毎時、美術クイズなどを盛り込み、楽しみながら美術に対する興味関心を高めている。</p>
保健体育	<p>○積極的に運動に親しもうとする生徒が多いが、苦手意識が強く取り組み自体が消極的な生徒が一定数存在する。どの単元でも、運動の楽しさを味わわせ、主体的に取り組むための指導・支援が必要である。</p> <p>○運動、健康に関する知識・技能を活用することが不十分である。身に付けた知識を基に、自分の課題解決策を考えたり、取り組み方を工夫したりできる生徒が少ない。</p>	<p>○運動の楽しさを生徒自身が見付けていくような指導の工夫を行う。ルールや教具を工夫し取り組み易くすることに加え、タブレット端末等を活用して、生徒自身がその種目の歴史や特性を調べるなど、運動への興味・関心を高め、主体的な取組へ繋がる指導を行う。</p> <p>○グループ学習やペア学習を取り入れ、生徒同士で課題提示やアドバイスができるよう工夫する。さらに、それを他者に伝える機会を設定し、自分の考えを整理したり、共有したりできるよう指導を工夫する。</p>	<p>○体育委員を中心に、生徒が主体的に授業づくりに関わる場面を設定し、全体の主体性を高める工夫をしている。ペア学習やグループ学習を活用し、積極的に考えたり、意見を伝えたりする場を設けている。</p>
技術家庭	<p>○既習事項や生活の中の課題を見つけることはできるが、それを解決するための力に繋げることが課題である。</p> <p>○適切に課題解決学習を行うために、課題を設定できる生徒と、できない生徒の二極化が進んでいる様子が見られる。</p>	<p>○小学校図画工作科および家庭科からの既習事項の理解度を把握し、どのような力が求められるか、より具体的に例示していく。</p> <p>○スモールステップによる課題を通して思考力・判断力を高め、多くの生徒が自ら課題を設定し、取り組める環境を整える。</p>	<p>○多くの生徒は主体的に活動をしている。今後、自らで課題を設定し、取り組める環境を整える。</p>
外国語	<p>○積極的に会話をする生徒が増えていく一方で、片言になる、自分の意見を表現できないという生徒が一定数いる。また即興で読むこと、話すことが苦手で、事前に準備した文章などはできるが、周到に用意しないとできない生徒が多い。</p> <p>○英語に関する、背景や文化の違いなどを理解しようとする生徒が増えている。ただし、自分が興味・関心のないことに関してはあまり積極的に取り組めない生徒が多い。</p>	<p>○お題に対して、即興的に自分の意見を話す機会を設けたり、人の意見に対して自分の意見を述べたりすることができるように指導を工夫する。</p> <p>○ICT 機器を用いて、海外のサイトや文化などを調べたり、外国の文化について聞いたり興味関心を増やしていけるように心掛けて指導する。</p> <p>○生徒が興味・関心をもって授業に取り組めるように授業の導入部分について工夫をする。</p>	<p>○自分の意見を持ち、相手にどのように伝えることができるのかを繰り返し、トレーニングすることで即興性について改善傾向ではある。</p> <p>○ICT 機器で身近に海外を感じられるようになり、インターネットサイトなどを通じて興味・関心の幅を広げることができる。</p>